

平成27年度 研究開発助成事業 イノベーション創出研究支援事業 発展・橋渡し研究補助金（6件）

No.	研究開発テーマ名 および 研究概要	研究者氏名【所属／役職等】
1	<p>十勝ワイン搾り粕を利用した口腔ケア食品素材の歯周病予防効果の検証</p> <p>ワイン搾り粕（パミス）は池田町で年間約80トン、道内で数百トン発生するが、堆肥処分が実状である。これまでにパミスに含まれるオレオール酸を利用した素材製造法の確立、虫歯予防効果の確認を行った。本事業では、様々な病気と関係ある歯周病の予防効果を検証し、口腔ケア食品素材として広く人々の健康に役立てる。</p>	<p>大淵秀樹 [池田町ブドウ・ブドウ酒研究所 ／製造課品質管理係長]</p> <p>安彦善裕 [北海道医療大学歯学部／教授]</p> <p>植原 治 [北海道医療大学歯学部／助教]</p>
2	<p>牛伸長胚を用いた受精卵ゲノム選抜による高効率種雄牛造成技術</p> <p>ゲノム全体の塩基置換（SNPs）パターンを解析し牛の遺伝的能力を早期に評価するゲノム選抜が実用段階にある。本研究では、多大な労力と時間を要する種雄牛造成の効率化を目的に、我々が開発した2週齢受精卵（伸長胚）移植による子牛生産技術を発展させ、受精卵ゲノム選抜による高効率種雄牛造成技術を開発する。</p>	<p>平山 博樹 [東京農業大学／准教授]</p> <p>陰山 聡一 [北海道立総合研究機構 畜産試験場／研究主幹]</p> <p>森安 悟 [北海道立総合研究機構 畜産試験場／研究主幹]</p> <p>早川 宏之 [ジェネティクス北海道／生産部部长]</p>
3	<p>重症インフルエンザ治療薬開発のための医薬品評価動物モデルの確立</p> <p>スタートアップ研究補助事業で得た成果とノウハウを基に、本申請では、新規の重症インフルエンザ治療薬の創製に必要な、医薬品評価マウスモデルを確立する。また、前事業にて新たに見出した重症化マーカー候補因子とインフルエンザの重症化との因果関係を明らかにし、次世代の新薬開発の足掛かりとする。</p>	<p>高山 喜好 [(株) エヌビー健康研究所／代表取締役]</p> <p>喜田 宏 [北海道大学人獣共通感染症リサーチセンター ／特任教授・統括]</p> <p>栗林 沙弥 [(株) エヌビー健康研究所／]</p>
4	<p>指細小動脈拡張能を査定する連続法検査装置の試作とソフトウェアの完成</p> <p>血管内皮機能と細小動脈スティフネスを総合的に反映する指動脈の拡張能を査定する指細小動脈拡張能検査装置を実用化し、最早期段階での動脈硬化の予防医療とヘルスケアに広く普及させる。そのため本研究では、両手用と片手用に共用できる新規開発の連続法を搭載し自動解析ソフトウェアを備えた試作4号機を完成し試験する。</p>	<p>田中 豪一 [札幌医科大学／准教授]</p> <p>幅田 紀夫 [エルムデータ(株)／次長]</p> <p>加藤 有一 [札幌医科大学／助教]</p> <p>小林 皇 [札幌医科大学／助教]</p>
5	<p>有機廃棄物の鉄触媒処理による多機能性人工腐植資材の開発</p> <p>有機廃棄物と複合腐植化原料・ペーパースラッジ(PS)を配合し、鉄触媒添加、熱処理を行い、pH緩衝能に優れ植物生長に有用な複合腐植資材を開発する。PS(木質繊維・CaCO₃・粘土鉱物)による生産コスト削減、腐植特性を含めて酸性土壌の中和能等の評価から多機能性複合人工腐植資材の実用的可能性を確認する。</p>	<p>福嶋 正巳 [北海道大学大学院工学研究院／准教授]</p> <p>菅野 新也 [(株) 大創 KET 研究所／代表取締役]</p> <p>川口 真 [(株) 上田組／取締役総務部長]</p>
6	<p>家畜伝染病予防のための待ち受け消毒用着色粒状散布剤の実証試験</p> <p>家畜伝染病予防のため消石灰による待ち受け消毒が広く実施されているが、消石灰粉末の飛散による人・家畜への悪影響や消毒効力低下の判断が難しい等、使用に際し幾つかの問題がある。本研究では、粒状化することで飛散を防止し消毒効力を色の変化で判断できる「待ち受け消毒用散布剤」の実用化を目指した実証試験を行う。</p>	<p>徳樂 清孝 [室蘭工業大学大学院工学研究科／准教授]</p> <p>阿部 徹 [株式会社阿部産業／工場長]</p> <p>山中 真也 [室蘭工業大学大学院工学研究科／准教授]</p> <p>上井 幸司 [室蘭工業大学大学院工学研究科／准教授]</p>